

2024年度

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、学校法人国際総合学園 長岡公務員・情報ビジネス専門学校の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

2025年3月24日

I 長岡公務員・情報ビジネス専門学校の教育の目標

◇建学の精神

「教育、文化を通して地域社会、国家の発展に寄与する。」

◇教育方針

スペシャリストの育成

本校は現代社会の要請、特に地元産業の求める人材の育成を目的とする。そのため、実社会で要望され、卒業後すぐに役立つ資格、能力、知識を備えた「スペシャリスト」を育成する。

豊かな人間形成

また、資格、技能を持つと同時に、社会的常識と基本マナーを備え、明るく建設的な意志をもった人材を養成する。

Ⅱ 自己点検・評価の実施結果について

2024年度に実施した「自己点検・評価」に関する実施結果について、下記のように報告いたします。

※評価項目の達成度及び取り組み状況

適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
A	B	C	D

1. 教育理念・教育目標・人材育成像			達成度
(1) 建学の精神、教育理念、教育目標、育成人材像が定められ、公表されているか。			A
項目	①	学生等に対して教育理念等を明文化し、周知を図っているか。	A
	②	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知を図っているか。	A
	③	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか。	A
	④	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A
	⑤	各学科の教育目標・育成人材像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	B
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、校訓、教育方針などを《学生の手引き》に記載し、学生および教職員は電子データにて常に閲覧が可能な状態となっている。また、毎年4月に実施する新入生・進級生のオリエンテーションの際には対面による説明の機会を設け、より深い理解につなげている。 ・教職員に対しては年度初めに《学生の手引き》の読み合わせを行なって内容の浸透をはかるとともに、変更や更新が為される場合は変更内容について確認する機会を設け、理解と指導についての情報共有を行っている。 ・学外に対しては学校HPによる情報公開を行っている。 ・学習指導については、各学科で作成されたシラバスに則り、建学の精神に基づいて、且つ、地域社会のニーズに対応し時代の要請に応えながら、企業等の現場に於いて即戦力となり得る人材の育成に努めている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供の方法が紙媒体からWeb媒体へと変化しているため、利用者に対して十分な周知が求められる。 ・各学科が対応する業界のニーズについて、常に動向を意識していく。 		

2. 学校運営			達成度
(1) 学校の管理・運営体制が確立しているか。			A
項目	①	学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。	A
	②	運営方針に沿った事業計画を定めているか。	A
	③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	A
	④	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に行われているか。	A
	⑤	組織の構成員のそれぞれの職務分掌が文書化されているか。	A
	⑥	人事、給与に関する制度を整備しているか。	A
	⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
	⑧	情報システム化等に取り組み、業務の効率化を図っているか。	A
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の運営については学則および諸規定によって明確化されており、有効に機能している。また、法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、NSGグループ全体で定期的に理事会、評議会が行われている。 ・教務部門の会議、就職部門の会議を毎月1回開催して、学内（学生）状況の把握に努めている。 ・人事、給与については、法人の就業規則および諸規程によって規定されており、法令に遵守して整備されている。諸規程は全職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更のあった場合は周知連絡されている。個人情報保護については、NSGグループ全体で管理・指導され実行している。 ・教育活動等については、当校のホームページ等により情報公開を行っている。 ・情報システム化については、学籍管理システム、財務会計システム、勤怠管理システム等を利用して、業務の効率化が図られている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種制度の整備やシステム導入により教職員の働き方改善が進んでいるが、継続してより良い環境づくりを進める。 		

3. 教育活動			達成度
(1) 教育目標に沿った教育課程が策定されているか。			A
項目	①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	A
	②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育方針に沿ったカリキュラム及びシラバスは、各系・各学科の特色が出るものとなり、即戦力としての人材育成に役立つ構成になるよう考えられている。 ・カリキュラムをはじめとした教育課程全般の検証のために教育課程編成委員会を実施し、いただいた意見をカリキュラムに反映させている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より時代のニーズに合ったカリキュラムにできるよう、更に企業等との連携が必要な科目があり、継続的に取組んでいく。 		
(2) 教育課程に基づき教育内容は適切に行われているか。			A
項目	③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	A
	④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	A
	⑤	関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	B
	⑥	授業に関するシラバスが作成されているか。	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの編成は、教育理念、教育目標、人材育成像を踏まえ、学科長、科目担当者を中心に、毎年検討して策定されている。また、カリキュラム策定や教育方法の工夫について、各学科の教育課程編成委員会における意見も踏まえ見直しが行われている。 ・カリキュラム及びシラバスは、教育理念・教育目標に沿いながら、各学科の特色が出るものとなり、即戦力としての人材育成に役立つ構成になるよう考えられている。より時代のニーズに合ったカリキュラムにできるよう、更に企業等との連携が必要な科目があり、継続的に取組んでいく。 ・年2回実施される授業アンケートの結果も各系の学科長、教務部長、副校長が確認をして教育効果の確認に役立っている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連分野の企業や団体との連携は今以上に発展させ、業界ニーズに合わせたカリキュラム改善が可能と考えている。各学科の教育目標、育成人材像に向け業界ニーズに対応した付加的教育の更なる充実を目指し引き続き取り組む。 ・大学併修科に関しては次年度完成年度を迎えるが、学科運営、学習効果についての検証を行い、課題の抽出とより適切な内容を目指す。 		

(3) 教育の評価を適切に行っているか。			A
項目	⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A
	⑧	授業評価が定期的に行われているか。	A
	⑨	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	A
	⑩	職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	B
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生に対する授業アンケートを前期末・後期末の年2回実施し、その結果については、各系の学科長から、専任職員に対してフィードバックされている。また、改善点や、問題点などに対して、各系の学科長、教務部長、副校長が内容を確認している。 入学時アンケート(新入生)や、就職決定者アンケート(卒年次生)を実施して、学生の声を吸い上げる取り組みも実施している。 授業動画の共有や、他の教員による授業見学の実施などで、改善を図っている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部関係者からの評価が限定的であるため、企業・地域・行政との連携を拡大していくとともに、連携内容を発展させられるような提案を検討していく。 		
(4) 成績評価、進級・卒業判定を適切に行っているか			A
項目	⑪	成績評価、進級・卒業の基準は明確になっているか。	A
	⑫	基準に基づいて成績評価、進級・卒業の判定を行っているか。	A
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績評価、進級・卒業の基準については、学則および各規程を定め、学生の手引きに記載することにより周知させている。各科目の評価基準については、シラバスに記載しており、これらに基づいて成績評価を適正に行っている。 進級・卒業については、教務部長、副校長による進級判定会議・卒業判定会議において決定している。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神的な問題や健康上の問題などで登校できない学生が年々増加しているため、オンライン授業の取り扱いなど柔軟な対応を確立する必要がある。 		

(5) 教職員体制の整備、教員の能力開発のための取り組み。			A
項目	⑬	学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	A
	⑭	教員の組織体制を整備しているか。	A
	⑮	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修が行われているか。	B
	⑯	教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行なわれているか。	A
	⑰	企業・地域・行政との連携を図っているか。	B
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の種類、学生数を考慮した上で、学校の教育理念・目的の達成に必要な教員を確保し、教員組織を構築している。教員採用時には模擬授業の実施やOJTにより指導力向上と組織への順応を促している。組織は分野ごとのグループに分かれ、管理職を中心にグループ内で情報共有や連携が行なわれている。 ・教職員の資質向上については、法人の研修規定に基づいて行われる各種研修に参加するほか、それぞれの専門性に応じた外部研修への参加を奨励している。 ・企業や地方公共団体との連携を図っているが、講師派遣などは不足している。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上の取り組みは行えているが、更に高度で先端的な内容とするためには、研修や研究に充てる時間がまだ不足している実情がある。教員の日常の負荷を軽減するための取り組みを継続する。 ・企業・地域・行政との連携を図っているが十分ではないため、講師派遣の確保などにつながるマネジメントを強化していく。 		

4. 学修成果		達成度
(1) 各学科の教育目標、育成人材に向けてその達成への取り組みと評価がされているか。		A
項目	① 就職率の向上が図られているか。	A
	② 資格取得率、公務員試験合格率、コンテスト・コンペ入賞数の向上が図られているか。	A
	③ 退学率の低減が図られているか。	A
	④ 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか。	B
	⑤ 卒業生の卒業後の動向や従業状況を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか。	B
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望の学生に対しては就職部と担任が連携して指導を行い、就職希望者の内定率100%を目標として設定し達成した。全学生の就職活動記録が一覧表としてまとめて記録されており、就職活動報告書は後輩に向けた貴重な資料の一助ともなっている。 ・各種資格試験・公務員試験・コンペ等にも明確な目標を設定して教職員で共有している。また報告書を作成、提出するなど、その結果を検証し次へのステップとして活用している。社会のニーズに対応できる即戦力としての資格取得を目指し、きめ細やかな指導を実施している。 ・退学目標も年度当初に設定され、クラス担任を中心に各系で連携して退学抑止に努めている。情報は教職員だけでなく事務職員にも共有されている。 ・卒業生の進路・就職先等は記録され、卒業後も就職担当等による企業訪問の際に状況確認が行われている。卒業までに就職未決定者がいる場合は、希望があれば卒業後も就職支援を行っている。 ・卒業後の進路変更については、状況を把握しきれない場合や把握が遅れる場合がある。社会的な活躍の把握も含め卒業生とのネットワークは十分とは言えない。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校までに不登校を経験するなど登校が出来ない学生や、基礎学力の低い学生の比率が高まってきている中で、そのような学生に対応した改善を大胆に検討する必要がある。 ・卒業生とのネットワークの充実。 	

5. 学生支援			達成度
(1) 各学科の教育目標、育成人材に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に 行われているか。(入学前)			A
項目	①	学校案内等には育成人材像が明示されているか。	A
	②	学校案内等には目指す資格・検定・コンペが明示されているか。	A
	③	学校案内等には学費・教材費等が明示されているか。	A
	④	学校案内等には選抜方法が明示されているか。	A
	⑤	入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制が出来ているか。	A
	⑥	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか。	C
	⑦	入学者に対して学習、学校生活の為のオリエンテーションが行われているか。	B
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校パンフレットや、HPにおいて、各学科のメインの授業、科目、目標、就職採用実績などを明示し、オープンキャンパスなどを通して、学科選択のミスマッチ回避を図っている。 オリエンテーションでは、学習内容はもちろん学校生活を示すことで、モチベーション醸成に努めている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学予定者に対する事前学習指導の充実を図り、早期の入学前オリエンテーションの実施を含め検討する。 		
(2) 各学科の教育目標、育成人材に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に 行われているか。(在学時)			A
項目	⑧	学生の進路・就職に関する支援を適切に行っているか。	A
	⑨	学生相談に関する体制を整備しているか。	A
	⑩	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	A
	⑪	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A
	⑫	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	B
	⑬	保護者等との連携を適切に行っているか。	B
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任教員は、少なくとも年3回、定期的に学生との面談を実施している。また学生の抱えている不安や要望の対応の場として随時個別面談を行い、必要に応じて管理職等も内容を共有している。 担任の他に就職活動を支援する就職課を設置し、情報の提供や就職指導を行っている。 公的な修学支援制度等の説明の他、法人独自の奨学金制度や学費分納制度等を整備している。 定期的に健康診断を実施している。 常駐ではないが学校担当の産業カウンセラーが存在し、希望すればカウンセリングを受けられる環境である。またSNSを活用したカウンセリング制度もあり、希望者の利用が可能になっている。 保護者とは、入学式後の保護者説明会実施の他、対面またはオンラインの保護者面談会を実施して情報共有を図っている。成績不振や出席不良など課題のある学生については担任・学生・保護者の三者面談等を随時実施して連携を図っている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神的な不安を抱える学生が年々増加しており、それらの学生への対応に教職員は苦慮している。オンライン授業等も含め授業のあり方についても検討していく。 		

(3) 各学科の教育目標、育成人材に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に行われているか。(卒業後)			B
項目	⑭	卒業生の会(同窓会等)はあるか。	A
	⑮	卒業生への職業紹介をしているか。	B
	⑯	学校情報を卒業生に知らせているか。(HP、学校便り等)	B
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校友会(卒業生)主催による同窓会が年1回実施されており、学校も協力している。 ・卒業生を対象とした求人は僅かではあるが届いており、希望は少ないが卒業生の就職・転職相談にも対応している。卒業生の就職先への訪問が全員にはできておらず課題となっている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生への支援体制が不十分であると考えている。学校情報はHPにおいて公開し更新しているが、卒業生向けの情報としては改善の余地があるため内容を検討する。 		
(4) 上記以外を通じての学生支援			B
項目	⑰	学校情報を高等学校等に知らせているか。	A
	⑱	学校情報を企業等に知らせているか。	B
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPを中心に、学校訪問、リーフレット等により情報提供を行っている。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状報告の方法と機会の増加を検討していく。 		

6. 教育環境			達成度
(1) 教育環境が整備・活用されているか。			A
項目	①	教育上の必要性に十分対応できるような施設・設備が整備されているか。	A
	②	教育上の必要性に応じた機材・備品が整備されているか。	A
	③	防災に対する体制は整備されているか。	B
	④	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	B
	⑤	学校生活（実習・行事・学外活動等）において保険加入しているか。	A
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備については設置基準を遵守し、教育目的および人材育成像に沿った教育に必要なものが整備されている。機材・備品についても必要な整備が整備されており、定期的に管理・点検がなされている。 ・就職支援に必要なスペースとして、就職資料コーナーや就職指導面談のできる部屋を設けている。 ・防災設備（非常灯・消火器等）が整備・点検されている。避難場所が指示されており各教室に避難経路が掲示されている。 ・保険の加入を推奨して学校生活における事故に備えている。 ・校内および学校敷地内は全面禁煙である。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修については、2024年度より活動を再開した。引き続き感染対策にも留意しながら、継続的に実施し推進を図る。また、インターンシップ（学外研修）の取組みを増加させる。 ・全校での避難訓練については、近隣への影響を考慮しつつも、外部集合場所への非難完了時間の測定も含め更に充実したものとしていく。 		

7. 学生の受け入れ募集			達成度
(1) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。			A
項目	①	入学者受入方針を策定し、教職員および学生等に周知し、学外にも公表しているか。	A
	②	学生募集活動は公正かつ適切に行なわれているか。	A
	③	学生募集活動において、資格取得・就職状況などの情報は正確に伝えているか。	A
	④	学生納付金は妥当なものとなっているか。	A
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集については、学校パンフレットやHPにおいて、各学科のメインの授業、科目、目標、就職採用実績などをわかりやすく示しており、オープンキャンパスなどを通して理解を深めてもらっている。 ・パンフレット、募集要項は毎年作成して入学希望者に配付している。 ・資格取得、試験合格、就職状況などは、数値データを示し理解を図れるよう説明している。 ・学生納付金については、適切な設定を行っている。教材費については各学科のカリキュラムに合わせた教材等を教務で協議して決定している。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2026年度入学生より授業料の値上げを予定。引き続き教育の質向上を図っていく。 		

8. 財務			達成度
(1) 財務体質が健全であり財務運営が適切に行われているか。			A
項目	①	中・長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。	A
	②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また適正に執行されているか。	A
	③	財務について会計監査が適正に行われているか。	A
	④	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	A
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。 (学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている) <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に無し 		

9. 法令等の遵守		達成度	
(1) 法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行っているか。		A	
項目	①	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか。	A
	②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	A
	③	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。	A
	④	自己評価結果を公表しているか。	A
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準については、法人本部が窓口となって対応して遵守し、適正に学校運営が為されている。 ・学校管理、運営体制については、組織図、校務分掌を毎年度作成し周知徹底を図っている。 ・個人情報保護に関する規則は明文化されており、“学生の手引き”によって学生にも周知されている。 ・自己点検・評価については、教職員アンケートの実施など等も踏まえて実施している。授業に関しては上期・下期の年2回のアンケートを実施して教職員の資質向上につながるよう努めている。 ・自己点検・評価結果を作成し、当校ホームページに掲載して公開している。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価の重要性について更に全教職員で認識する必要がある、校運営に携わる者は、その意識の醸成と機会を設ける事に努める。 		

10. 社会貢献・地域貢献			達成度
(1) 学校の教育資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動が推進されているか。			A
項目	①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか。	A
	②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A
	③	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか。	B
評価の理由・ 課題・今後の 改善方策	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催されるボランティア活動などに学校として積極的に参加している。学生のボランティア活動については学校が窓口となるものの他に、学生個々の自主的な参加を促すため、カレッジリーグフィールドプログラムにおいて推奨している。 ・長岡商工会議所、ながおか若者しごと機構、長岡市国際交流協会等の会員として、地域活動と関わりを持っている。より積極的な連携を図っていく。 ・長岡市を中心とする小学校や中学校の見学会の受け入れを積極的に行っているとともに、要請によって出張授業等にも参加している。 <p>【課題・今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標・計画に基づく社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）を更に実施していくことで、より一層の社会貢献・地域貢献に寄与する。 ・教育資源の社会への提供（施設・設備の開放・教職員の出張講座等）についても計画する。 		

以上